

開園以来57年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は322名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており、特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景とした虐待を入所理由とする児童が著しく増加している。そのため、入所児童に対し細やかな心理的サポート等が求められる場面が多くなっており、職員には高い専門性と児童に対するきめ細やかな配慮が、これまで以上に求められている。

愛童園は、児童の最善の利益のために、関係機関や地域社会と連携を図りながら、入所処遇の改善に日々取り組み、児童の幸せと心身の健やかな発達成長を見守り、社会的な自立を支援していく。

### ◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

#### (1) 児童の権利擁護

- ① 職員は施設内外の研修に参加するなど人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 権利侵害により児童の心身の健康的な発達が妨げられないよう、個々の意見の集約や意見箱の設置等により把握を図り、児童一人ひとりが安全に安心して生活できるよう生活環境の整備や養育に努めた。

#### (2) 児童の養育・支援

- ① 日常的な生活援助と併せて、発達障害や知的障害のある児童に対しその障害の程度に応じた支援に学校や医療機関等と連携して取り組んだ。
- ② 学校と連携して就職情報を提供。児童が希望する職種選択の相談に乗るなどの就労支援を行った。
- ③ 学習ボランティアの協力も得て、学習環境の整備を行い児童の希望する進学校を目指した学習支援に取り組んだ。

#### (3) 心理的ケアが必要な児童への支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、児童相談所や専門機関とも連携し、職員間で情報を共有しながら児童の心理的ケアに取り組んだ。
- ② 精神医学分野の知識習得のため、児童の発達過程に応じた支援のあり方について、芸西病院の理学療法士等と連携して個別のケース検討会を実施した。

#### ◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 9名
- 個別対応年間実施日数 45日
- 1日当たり平均実施時間 45分
- 心理担当職員との連携及び職員会での連絡、情報交換

◆平成31年3月に中学校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		県立高知東工業高校
2	高校	女	○		私立広島工業大学
3	〃	男		○	香南市内企業(サービス業)

(4) 家庭支援の強化

- ① 家族の相談に応じるとともに、児童相談所や家族の居住する市町村・関係機関と連携し、児童と家族との関係調整を行った。
- ② 家庭引き取りに向けた児童と家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを行い、地域支援者会議を通して地域での受け皿づくりに努めた。
- ③ 児童相談所や市町村担当職員とのサポートケアを実施した。

(5) 事故防止と安全対策

- ① 事故発生対応マニュアル、食中毒・感染症マニュアルに基づいて対応し、インフルエンザ等の流行期には予防措置を徹底した。
- ② 防災対策マニュアルに基づき各種避難訓練、防火・防犯訓練を定期的実施した。また、福祉避難所としての役割を果たせるよう、行政と連携を密にした取り組みを行った。

(6) 家庭的養護の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、各種研修会へ積極的に参加した。
- ② 先進施設の視察を行い、本施設の構造や地域との関わりを踏まえた小規模化のあり方について、県計画を見極めながら検討を進めた。

(7) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 児童相談所と連携し、ケース会、面会、通所など児童の支援状況により、家庭も含めての情報共有に努めるとともに、一時保護の受け入れを行った。
- ③ 4自治体と業務委託契約を締結、ショートステイの受け入れを行い、養育里親のレスパイトケアにも繋がった。
- ④ 町民運動会や神社の伝統行事、盆踊り等に参加するなど児童と夜須地域との交流を行った。

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	3名	3名	26日
平成29年度	0名	0名	0日
平成28年度	5名	5名	89日

◆子育て支援短期利用事業（受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	3名	7名	9日
平成29年度	1名	6名	8日
平成28年度	2名	3名	14日

(8) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 児童の養育全般、虐待・発達障害等の専門分野別研修など、県内はもとより全国、中四国で実施される研修に参加し、職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師による園内研修として、交通事故防止講習を実施するとともに、救急救命講習、防犯講習にも参加し、児童の安全、安心な環境形成に努めた。
- ③ 第三者評価結果の指摘や指導を踏まえ、施設としての課題を職員で共有し、マニュアル等の見直しなどの検討を図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 6回／6名    ○中四国養協関係 2回／3名
- 県養協関係 7回／13名    ○各種専門研修 6回／6名
- その他 3回／16名

また、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会を5・9・2月の年3回全員参加で実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
定員（暫定）	30名 (29名)	30名 (28名)	30名	30名	30名 (29名)
在籍児童数	27名	24名	23名	22名	20名
職員数	17名	16名	17名	19名	19名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成30年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	23	23	23	23	24	24	24	24	23	23	22
入所	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

◆学年別児童数

平成31年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	2	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1	1	0	0	11
女	0	4	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	9
計	0	6	0	3	0	0	2	1	2	1	1	3	1	0	0	20

◆入所主訴理由別児童数

平成31年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	0	0.0%	虐待	10	50.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	0	0.0%
父母の拘禁	0	0.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	0	0.0%	措置変更	5	25.0%
父母の養育困難	5	25.0%	その他	0	0.0%
			合計	20	100.0%

◆平成30年度主要な年間行事

- 4月 新年度ホーム編成、花見会、小中学校家庭訪問
- 5月 GW買物ツアー、施設実習(龍馬学園)、第1回中央児相サポートケア
- 6月 第1回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、施設実習(龍馬学園)
- 7月 七夕祭り、
- 8月 安田川キャンプ、手結盆踊り参加、福祉避難所開設運営模擬訓練
- 9月 施設実習(高知学園短大)、小・中学校合同運動会、高校体育祭
- 10月 第2回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、保育・幼稚園合同運動会、夜須町民運動会
- 11月 夜須八幡棒打ち、洪水避難訓練
- 12月 クリスマス会、ワールドメイト、グリーンコール  
競輪選手会もちつき、開園記念日会食会
- 31/1月 お正月、卒園旅行
- 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)、第2回中央児相サポートケア  
第3回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 3月 防犯訓練、園内研修(芸西病院合同)